

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

366号

2021年8月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

韓米合同軍事演習の中止を強く求める理由 バイデン政権の妄想、ミサイル迎撃システム確保による核先制攻撃能力先取

バイデン政権の朝鮮半島政策が発表されて以来、最初の韓米合同軍事演習が8月に予定されている。朝鮮半島の自主的平和統一を願う立場から、韓国内外で演習中止を求める声が高まっている。米国側は演習を強行する姿勢を崩していない。バイデン政権の狙いがどこにあるのか探ってみる。

バイデン政権の朝鮮半島政策（対朝鮮敵視政策）は一言で言って停戦状態を持続させることだ。その目的の一つは停戦状態を理由にミサイル防衛システムを確立して、相手側の「核相互抑止」能力を無力化することだ。もう一つは朝鮮への経済封鎖を徹底するためと称して、同盟国を総動員することだ。この試みは新しいものではなく、朝鮮戦争中に北側への核攻撃を検討していた時から今日まで続く「対朝鮮敵視政策」を継続して行うということだ。いうまでもなく、これは対中国包囲網を狙ったもので、ここで日本は重要な役割を担っている。次に示す文書は、日本にある国連軍後方基地についての取り決めだ。

国連軍と我が国(日本)の関係について(外務省・令和元年7月23日)

(1) 国連軍は1950年6月25日の朝鮮戦争の勃発に伴い、同月27日の国連安保理決議第83号及び7月7日の同決議第84号に基づき(中略)同月、国連軍司令部が東京に設立された。

(2) 1953年7月の休戦協定成立を経た後、1957年7月に国連軍司令部がソウルに移されたことに伴い、我が国に国連軍後方司令部が設立された(当初キャンプ座間に置かれたが、200

7年11月に横田飛行場に移転した)。

(3) 現在、国連軍は、国連軍司令部本体と同司令部に配属されている軍事要員からなっており、在韓米軍司令官エイブラムス陸軍大将が国連軍司令官を兼ねている。

現在、朝鮮の海上封鎖作戦に参加している米国、英国、日本などが原子力空母を含む艦艇を動員して経済制裁の効果を強めるための監視活動を行っており、日本の港で物資の補給を行っている。韓国の星州では迎撃ミサイルシステム「サード」が配備されており、済州島の江汀村軍港に続き、2つ目の飛行場の建設が検討され、いずれも米軍の使用が可能だ。人口2500万人の最貧国と評価されている朝鮮の脅威を強調して、巨額のミサイル防衛システムの研究・開発費を確保するのが主な狙いだといえる。イスラエルのアイアンドームが、ハマスの

ロケット迎撃に効果があったと報じられているが、再突入する弾道ミサイルを効果的に迎撃する技術を開発するには多くの時間と費用が必要だ。

米国と韓国は2018年、それぞれ朝鮮と「シンガポール共同声明」「板門店宣言」などで朝鮮半島の非核化と戦争状態の終息を約束している。しかし、韓国は軍事費の増額で、米国は制裁強化で朝鮮を圧迫しており、さらに合同軍事演習の強行で朝鮮の疲弊を狙っている。東北アジアは20億人近い人々が暮らし、世界の3分の1を占める地域だ。朝鮮半島の自主的平和統一こそ急がれる課題だ。誰かの都合で戦争に繋がることがないように韓米合同軍事演習に断固反対しよう。(鐵)



▲韓米合同軍事演習中止を訴える韓国民衆

韓米合同軍事演習中止と

国家保安法の廃止を訴える！

在日韓国人全国代表者会議

8月に韓米合同軍事演習が強行されようとする中、「韓米合同軍事演習の中止と国家保安法の廃止を求める在日韓国人全国代表者会議」が7月4日(日)、東別院会館(名古屋市)で開催され、全国から韓統連・韓青の活動家が参加した。



▲主催者挨拶を行う宋世一委員長

代表者会議では、宋世一(ソ・セイル)韓統連委員長が主催者挨拶を行い「韓米合同軍事演習の中止が、南北・朝米関係改善の大きな一歩となるという主張が世論化している。また、私たちをはじめ統一を志向する勢力が、国家保安法体制によって苦しめられている矛盾を打破する機会も生まれつつある。今日の代表者会議を皮切りに全国一斉の集中運動を展開し、国内の運動と連帯しながら、合同軍事演習の中止と国家保安法の廃止を求める大きなうねりを日本の地から作り出していこう」と語った。

金昌五事務長(大阪本部副代表委員)から今後の事業計画が提起され、満場一致で可決された後、韓成祐(ハン・ソウ)韓青中央本部委員長と文世賢(ムン・セヒョン)韓統連神奈川本部代表委員が決意表明を行い、最後に決議文(4Pに全文掲載)の採択と韓米合同軍事演習の中止、国家保安法の廃止を求めるプラカード・アピールを参加者全員で行い、代表者会議は終了した。

侵略に立ち向かう民衆の闘いを学ぶ

7・18韓統連セミナー

韓統連大阪本部主催の韓統連セミナー2021「列強の侵略と闘う民衆～激動する世界史と朝鮮

民族の前途～」が7月18日(日)、KCC会館(大阪市生野区)で開かれた。

緊急事態宣言が解除されて、最初の大阪本部主催の行事には会員及び地域同胞、日本人が参加する中、金隆司(キム・ユン)韓統連大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「今回から3回シリーズで私たち民族の近代史を学びます。なぜ日本は朝鮮半島を侵略したのか？二度と侵略されないためには何が大切なのかなどをセミナーを通じて共に学んでいきましょう」と語った。



▲セミナーには多くの同胞・日本人が参加

次に、金昌範(キム・チャンボム)副代表委員が報告を行った。金副代表は報告の中で▲イギリスの産業革命とアヘン戦争を契機に欧米のアジア侵略が本格化。▲清国の「洋務運動」に閔氏政権が動揺し開国へと進み、「壬午軍乱」や「甲申政変」といった政権内外の葛藤。▲乙巳保護条約の締結と抗日義兵闘争の拡大などが解説され、最後に、この時代の教訓として「自国の主権を守るためには、自主外交の理念が確固としなければならない」述べるとともに、「どのような状況でも国を活かす力の源泉は民衆」と語った。

報告後、崔誠一(チェ・ソニル)事務局長が韓米合同軍事演習中止と国家保安法廃止を求める全国キャンペーンの協力要請を行った後、報告に対する質疑討論が行われた。

その後、全日建連帯労組近畿地方本部執行委員長の垣沼陽輔さんから、7月13日に開かれた武建一関西生コン支部執行委員長などに対する大阪地裁判決公判の報告とセミナー参加者からアピールが行われ、最後に金昌五(キム・チャン)副代表委員が閉会挨拶を行い、セミナーは終了した。

朝鮮半島の休戦協定を平和協定に、 東アジアの恒久平和を実現しよう！ 日韓平和連帯主催7・27大阪集会

朝鮮戦争休戦協定締結から68周年を迎え、日韓平和連帯の主催で「朝鮮戦争・休戦協定68周年 シンガポール共同声明と板門店宣言の履行による東アジアの恒久平和をめざす7・27大阪集会」が7月27日(火)、エルおおさか(大阪府市中央区)で開かれた。

集会では、日韓平和連帯共同代表の山元一英さんが主催者挨拶を行った後、「朝鮮半島をめぐる情勢と私たちの取り組むべき視点」をテーマに、フォーラム平和・人権・環境共同代表の藤本泰成さんが報告を行った。

藤本さんは「朝鮮戦争以降、米国は対朝鮮敵視政策をとり続け、現在も継続されている。停戦協定を平和協定に変更するためには制裁の解除など、具体的な敵視政策を変更しなければならない」と語るとともに、「日本では在日朝鮮人への差別を日本政府が率先して行っている。そうした状況で朝鮮との信頼関係が深まるのか。私たちに必要なのは在日朝鮮人への差別を排除し、歴史事実をしっかり向き合うこと。そのことを基本に市民連帯を強化しよう」と語った。



▲リモートで報告を行う韓忠穆常任代表

続いて韓国からリモートで、韓忠穆(ハ・チュンモク)韓国進歩連帯常任代表が「朝鮮半島の平和と非核化、東アジアの恒久平和の実現」をテーマに報告を行った。

韓代表は初めに、1年以上断絶された南北通信連絡線が再開されたことについて「南北両首脳の合意で通信線が再開されたことは、南北の和解と協力に向けた前進だ」と語った。

次に韓代表は「朝米敵対関係を清算するためには、米国が朝鮮と信頼関係を構築しなければならないし、そうでなければ平和協定締結も非核化も実現できない」と述べた。そして「私たちは8月15日(解放記念日)を契機に反米自主、朝鮮半島の平和統一の実現に向けた一大闘争を始める」と述べ、「日本からも支持・連帯の声をあげてほしい」と訴えた。

報告後は質疑応答が行われ、最後に日韓平和連帯事務局長の垣沼陽輔さんが閉会挨拶を行い、集会は終了した。

中村哲さんの意志を受け継ぎ アフガニスタン、世界平和の実現を！

7・11反戦平和集会

2019年に凶弾に倒れたペシャワールの会現地代表の中村哲さんを偲ぶ取り組みとして「中村哲さんの意志を引き継ぎ世界の平和をめざそう！

(主催：とめよう！戦争への道・めざそう！アジアの平和2021関西の集い実行委員会など)」が7月11日(日)、エルシアター(大阪府市中央区)で開かれ、在日同胞、日本人など500名が参加した。

集会は初めに、しないさせない戦争協力関西ネットワーク共同代表の中北龍太郎さんが主催者挨拶を行った後、ペシャワールの会PMS支援室室長の藤田千代子さんが講演を行った。

藤田さんはスライドを活用しながら、「中村医師が初めてアフガニスタンで医療活動を行った頃は、日本との習慣の違いや電力不足など苦勞が絶えなかった。そうした中、2000年に大干ばつの発生により深刻な水不足が起り、清潔な水を確保するため井戸掘りを始めた」と語った。

また「2001年の9・11同時多発テロ以降、米国を中心とするアフガニスタンへの空爆が続く中、首都のカブールで緊急食糧配給を実施し、27万人分の小麦粉などを配給した」と報告しながら、「干ばつは今も続いている、中村先生の事業は全て継続し、希望は引き継ぐ」と訴えた。

講演後は、フリージャーナリストの西谷文和さんの特別報告などが行われ、つどいは終了した。

韓米合同軍事演習中止と国家保安法廃止を求める 在日韓国人全国代表者会議 決議文

5月中旬にワシントンで開かれた韓米首脳会談において、バイデン大統領は文在寅大統領に対し、対中国包囲網を構築する上で、米日豪印4カ国による枠組み「クアッド」と連携するよう圧力を加え、地域安保とも関連させて、韓米合同軍事演習準備態勢と韓米日3カ国協力の維持・強化を求めた。一方でバイデン大統領は対朝鮮政策において、板門店宣言とシンガポール朝米共同声明に言及しながら、対話による外交的解決を主張した。

南北関係と朝米関係を改善し、朝鮮半島の平和と祖国の統一を実現するための第一歩は、決して韓米合同軍事演習準備態勢を強化することではなく、8月に予定されている韓米合同軍事演習の全面中止であることはいうまでもない。



▲韓米合同軍事演習中止を求めるプラカードアピール

朝鮮半島と南北間の緊張を激化させるばかりの軍事演習の中止は、板門店宣言とシンガポール共同声明の趣旨にも合致するものであり、敵視政策である軍事演習の放棄を求めている朝鮮側に、対話と呼びかける重要なシグナルにもなるはずだ。文政権はいまこそ民族自主精神を発揮し、韓米合同軍事演習中止の決断を下し、金正恩委員長と共に創り出した2018年の歴史的な統一情勢を復活させなければならない。

国家保安法違反容疑で、活動家や民主人士が連続して捜査、連行される事件が5月中旬から急増した。国家情報院の権限が縮小・移転することが決まり、国家保安法の廃止国会請願も短期間で成立するなど、廃止を求める運動と世論が高揚する中で、国情院を中心とする情報・公安積弊勢力が危機感からなりふり構わず抵抗したものだ。

いうまでもなく、国家保安法は民主と統一、人権を否定し弾圧する「悪法中の悪法」であり、一日も早く撤廃し、あわせて同法により獄中に囚われた良心囚は即時釈放されなければならない。南北首脳が祖国の平和と統一のために出会い合意を導き出すという時代に、統一の相手を「敵」とする国家保安法は存在すべき理由がまったくない。国家保安法を廃止してこそ、自主統一を実現できる。



▲拳をあげて国家保安法廃止を訴える

国家保安法の廃止と共に、韓統連会員に対する旅券発給制限の撤廃、韓統連組織に対する「反国家団体」規定の解除と名誉回復も必ず実現しなければならない。

韓米合同軍事演習の中止と国家保安法の廃止が、自主的平和統一への大道を決定的に切り開くとの認識の下に、われわれは次のように決議する。

決議事項

1. 韓米合同軍事演習を中止させよう！
1. 国家保安法を撤廃し、すべての良心囚を即時釈放せよ！
1. 南北・朝米合意に基づいて南北・朝米関係を改善させよう！
1. 祖国の平和と自主統一の実現のために継続して闘おう！

2021年7月4日

韓米合同軍事演習中止と国家保安法廃止を求める
在日韓国人全国代表者会議参加者一同

【投稿】

あなたのための行進曲

去る2月15日、白基玩(ペク・ギョン)先生が89歳で逝去された。終生、民衆の側に立ち、統一祖国の未来を仰ぎ見ながら闘い続けた、その先生の心を今も私たちに知らしめる代表的な遺作のひとつが「あなたのための行進曲」だろう。

愛も名誉も 名前も残すことなく
生涯闘い続けると誓った 熱き想い
同志の行方も知れず 旗だけがひるがえり
新たな時代を迎えるまで 決して揺らぐまい
歳月が流れても 山河は
知っている
目覚め、叫ぶ 熱き喊声
先に行くから 生き残った者よ続け
先に行くから 生き残った者よ続け

(投稿者の意識含む)

光州民衆抗争が起こった
当時22歳と半年だった私は、多くの先輩や仲間たちとともに、この日本の地でも闘いの戦線を築こうと躊躇なく街に出た。日々海を越えて入ってくる断片的な情報、日本のメディアによるおおよそ手前勝手な報道を前に覚える憤り。そして『なぜ自分は日本にいるんだろう』というやる瀬なさとも身もだえ。そんな言いようのない心情を闘争心へと昇華させたのは、ただただ自分が朝鮮人だという自意識の中から沸き上がった若き正義心であったと思出す。

翌年、この歌が私たちのもとに届いた。ありが

たいことに、この歌を通じて私たちの心と南の民衆の心がつながったような実感を抱けるようになり、以来、毎年この歌を歌い、記憶を呼び起こしている。

今、すでに齢60を超え、この歌を通じて抱く想いにも変化が伴うようになった。

かつて抱いた『なぜ自分は日本にいるのだろう』という想いには、40年余りの時を経て、日本で生きている現実を見つめ、そこに立ち位置を見出すという命題が同居するようになり、また、その命題は日ごとに鮮明になり、私の心を追い立てるようになった。これから先、運動の第1列にいる時間は徐々になくなっていくが、それ自体は自分にとって重要ではない。名誉も名前もいらない。より重要なことは、ここで闘う新たな道を作るために心血を注ぐこと



▲故白基玩先生

である。

私たちは2018年を起点に、すでに新たな時代を迎えた。しかし、その時代を正しく歩む道づくりは、未だ模索途上にある思う。

民族の成員が共通の幸福を享受し、隣人たちと平和に共生できる新たな道をこの日本で作り始めたとき、初めて自分は若い人たちに『先に行くからあとに続け』と胸を張れるだろう。その日のために、沈着し、目的意識を持って精進していきたい。(範)

ドキュメンタリー映画「私はチョンサラムです」上映会

日 時：8月14日(土)

場 所：東成区民センター大ホール(地下鉄今里駅2番出口から徒歩3分)

上映時間：①10:00~11:40 ②12:30~2:10

③3:00~4:40 ④5:30~7:10

※開場は上映開始時間の20分前からです

前売り：1000円(当日1500円)

主 催：同実行委員会 06-6711-6377

【書籍紹介】

長東日誌

在日韓国人政治犯・李哲の獄中起

李哲著・東方出版・3500円+税

本書について著者は「まえがき」で、「1975年に連行されて88年に出所するまでの、13年間の獄中記録である」としながら、執筆は1995年8月から1年間に渡ったと明らかにした。職場生活の合間の寸暇を惜しんでの執筆を支えたのは、自身とパートナーの閔香淑(ミン・ヒャンソク)さんに共通する思い―「幼い子らが両親の生きてきた過酷な人生について知らないまま成長するのではないか」との危惧だったという。「私の記憶が鮮明なうちに」ということも大きな動機となったようだ。

こうして私たちに手渡された獄中記は、韓国民主化・祖国統一運動に関わる、歴史の、社会の、獄中の、そして人間の、稀有な記録である。

本書には人の名前があふれている。獄中で出会った「社会の犠牲者」である一般囚の記録。なかでも死刑囚たち。たとえば20歳そこそこの殺人犯・洪春基(ホン・チュンギ)。貧しさゆえの犯行だったようだ。春基を不憫に思う姉が弟への差し入れのために職場の金に手をつけ、同じ西大門拘置所に収監されてしまう。死刑を怖れる春基を「一緒にいこうと慰めていた」著者が、祖国と民族を思って死刑囚になったから何の罪もない、堂々と死ぬると失言する。春基は「兄貴はいいよね、私は殺人犯だから……」。傷を癒してやれないままに処刑。でも最後は堂々と「李哲兄さんに先に行って待っている」との言伝

を残した。そして、政治犯として処刑された多くの方々。

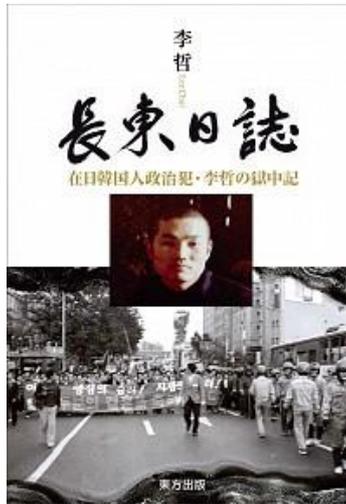
書き残されなかったなら、歴史の闇に塗りこめられてしまったらう人々を伝える著者の労作は、尊い。

分断の犠牲者であり、しかし闘士でありつづけた

長期囚の先生方の風貌、苛烈な獄中闘争の記録もまた、過去といまを繋ぎ、そして未来のための記憶の闘争でもある。著者が中心にいた「大邱7・31事件」は、韓国獄中闘争史に大書される勝利の記録として実に貴重だ。それ以外の獄中闘争も数々記録されているのは、著者が不義に沈黙できない人だからだが、闘いの方法はなべて極限手段の断食。また「処遇の改善を求めるときには自分より良い処遇を受けている人た

ちのことを口実としないという鉄則がある」という。この命をやすりにかける戦術と道徳性の意味はとてつもなく重い。

「人間の権力に対する闘いは忘却に対する記憶の闘いだ」(ミラン・クンデラ)という有名な言葉がある。著者(と閔香淑さん)が、わが子のために、と書いた獄中記は、いま私たちにリレーされ、私たちの記憶の共有財産となった。過去を忘れ、手綱を緩めれば、時代はたちまち逆行する。大統領選挙を控えた韓国にその兆候はない、とは言い切れない。(黄英治)



◆◆行事案内◆◆

光復節76周年 在日韓国人関西地域集会

日時：8月15日(日) 午後1時30分 受付
午後2時 開会

場所：PLP会館4階中会議室

(地下鉄扇町駅4番出口から徒歩5分)

内容：情勢講演

講師：金昌五 韓統連大阪本部副代表委員

参加費：800円(青年学生500円)

主催：同実行委員会 06-6711-6377

韓統連セミナー2021

甲午農民戦争(1894)

～わが民族民衆史の偉大な足跡～

日時：8月22日(日) 午後1時30分 受付
午後2時 開会

場所：東成区民センター6階

(地下鉄今里駅2番出口から徒歩3分)

報告者：金昌範 韓統連大阪本部文教部長

参加費：500円(青年学生300円)

主催：韓統連大阪本部 090-3822-5723 (崔)

